

# 補助事業実績に基づく分析

## 事務局による分析のねらい

- (1) 補助実績について  
類似の活動を行っている団体の使用している経費を比較することにより、補助申請額の内容を検討する材料とする。
- (2) 活動実績について  
継続団体については、項目ごとに数値の変遷を把握することで継続性があるか否か検討を行う。
- (3) 共通事項  
類似の活動を行っている団体間の経費と実績を比較することで、事業採択の際の基準項目等の見直しについて検討を行う。

平成22年12月27日

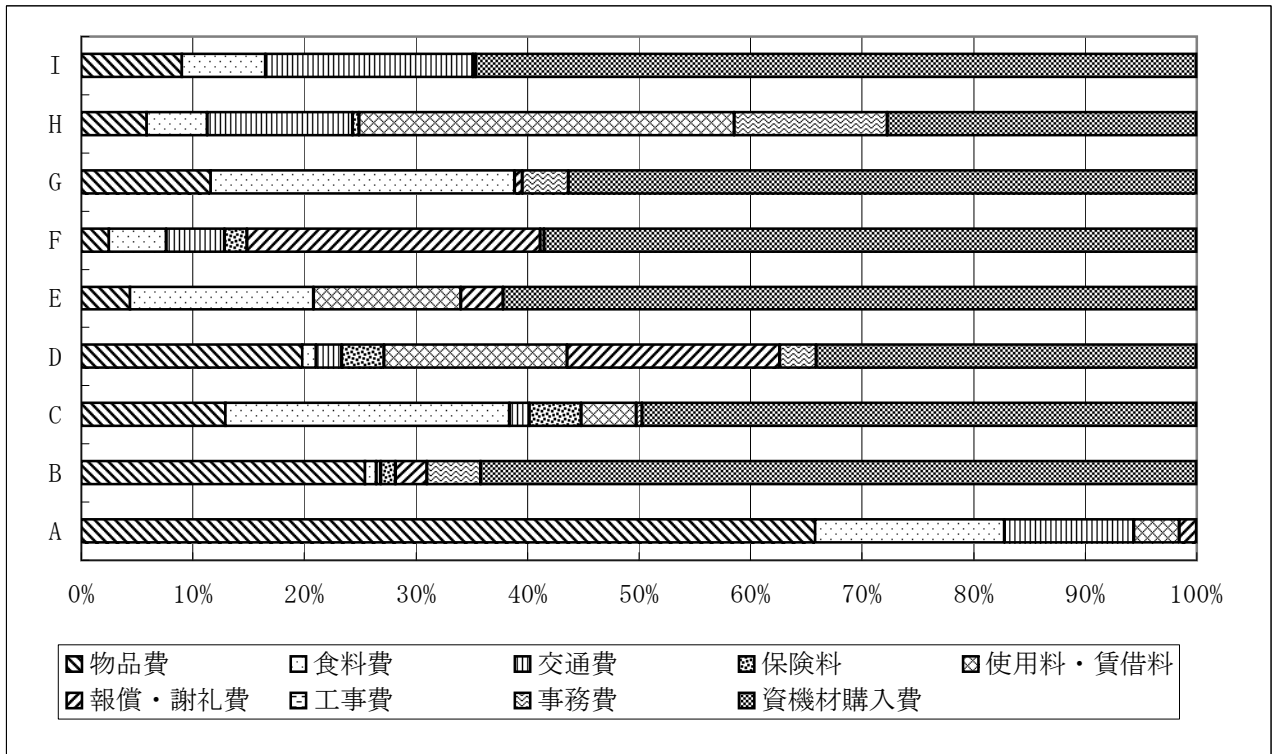
水源環境保全・再生かながわ県民会議

市民事業専門委員会

# I 森林の保全・再生事業実績に基づく分析

## 1 補助実績に係る分析

### (1) 各団体別の経費内訳

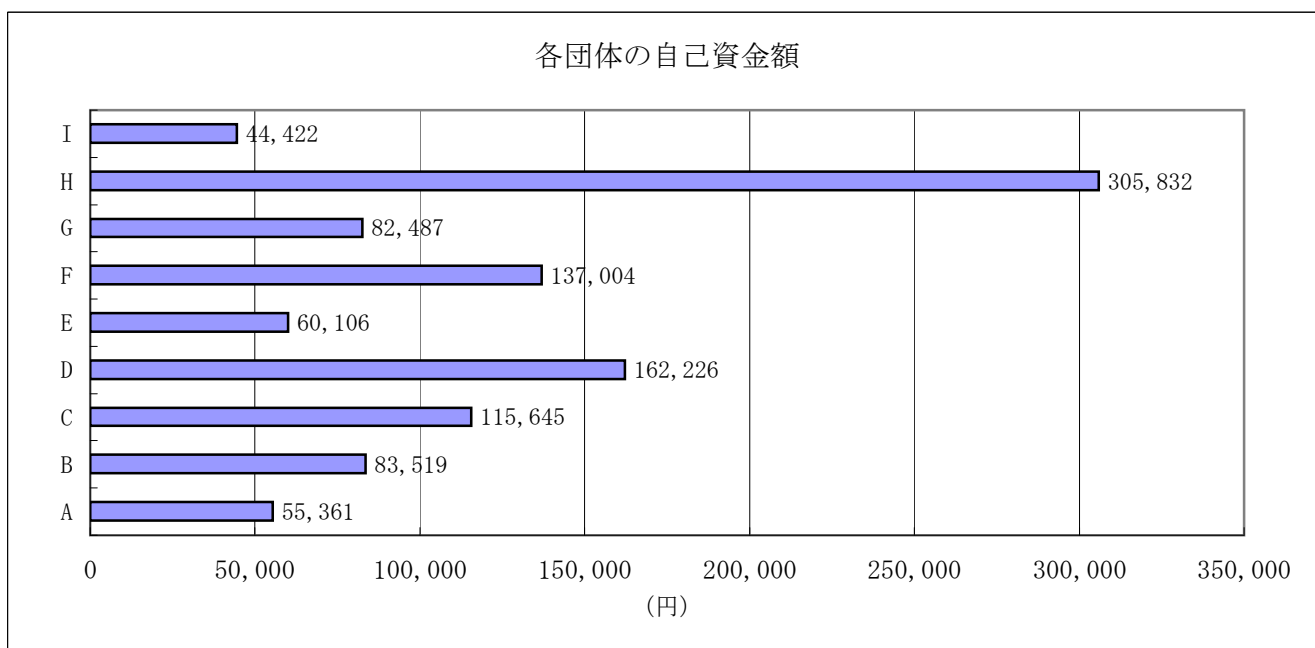
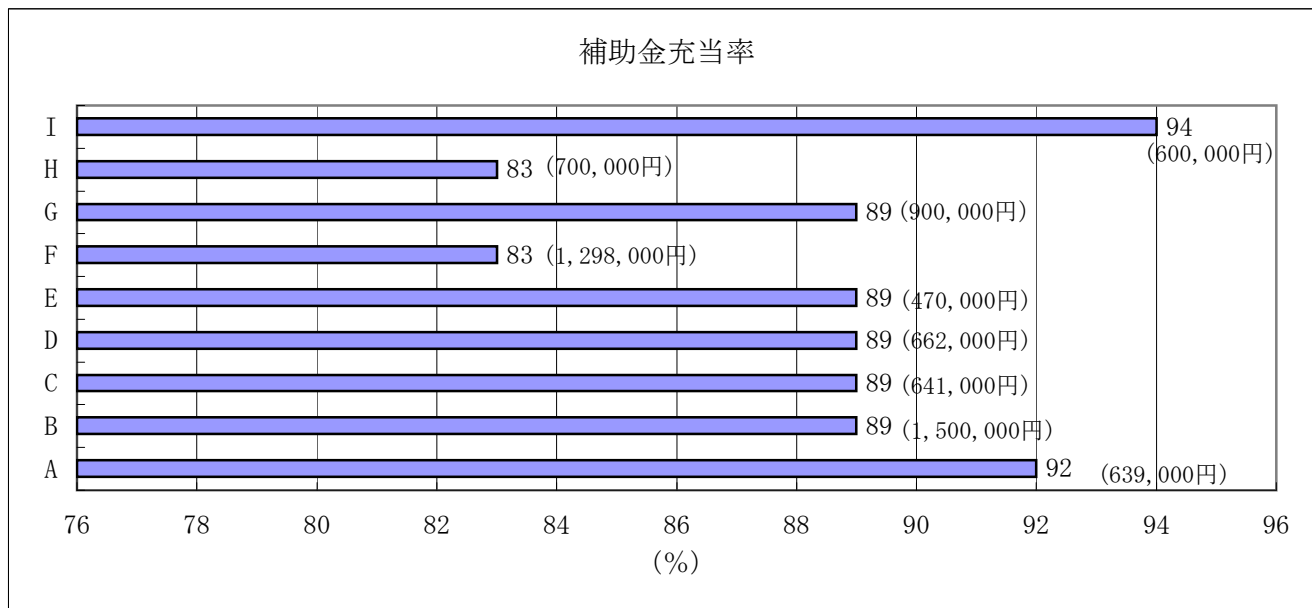


費目	内 容	内 訳
物品費	・鋏、鎌、鋸替刃等消耗器具 ・燃料費	・森林整備用物品（シュロ縄、針金、竹箒等）
食料費	・参加者弁当 ・飲み物代	
交通費	・電車代	
保険料	・グリーンボランティア保険 ・レクリエーション保険	
使用料・賃借料	・貸し切りバス ・炊き出し用プロパン	
報償・謝礼費	・炭焼き指導謝礼 ・ユンボ操縦謝礼 ・チェーンソー資格者謝礼	
事務費	・チラシ印刷作成費 ・クラブ通信発送費 ・チラシ発送費、 ・チェーンソー講習会参加費 ・写真代 ・郵送費	
資機材購入費	・チェーンソー ・安全带 ・刈払機 ・鉋、鎌、鋏	

### <分析概要>

- 資機材の購入をしていない1団体を除く、全ての団体において活動経費に占める資機材費の割合が一番高く、平均で43%となっている。
- また、要望の高い保険料については、補助対象となっているにもかかわらず、加入している団体は9団体中5団体となっている。

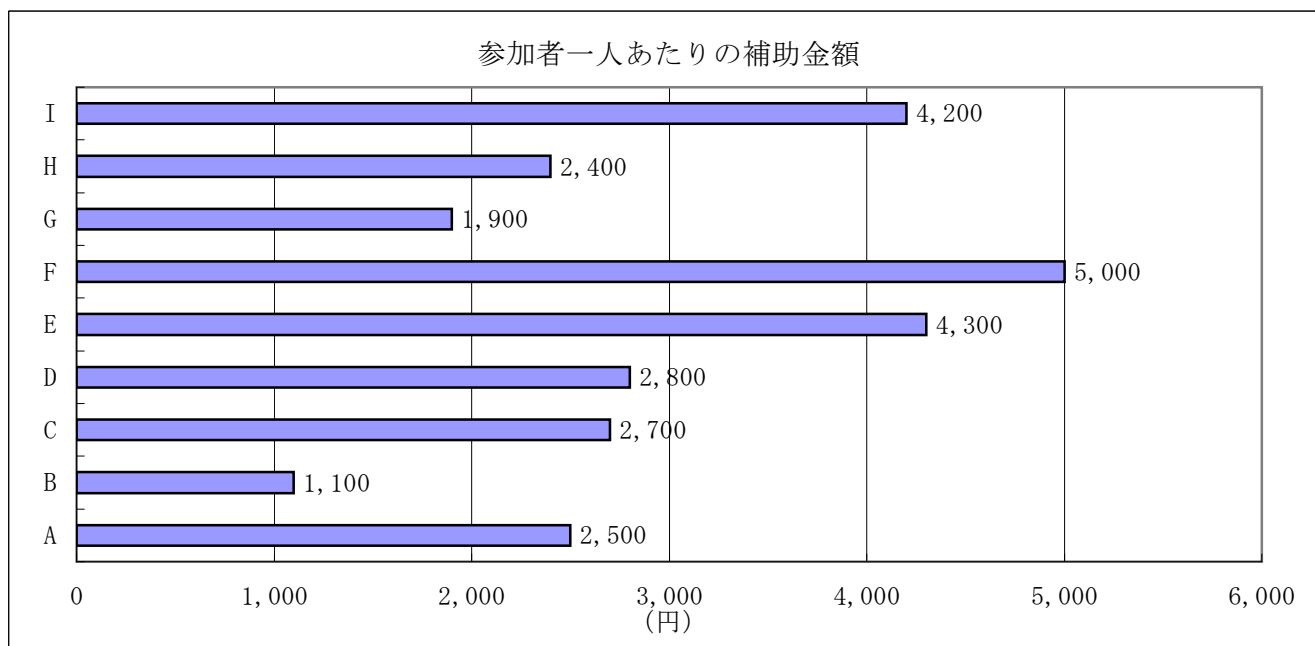
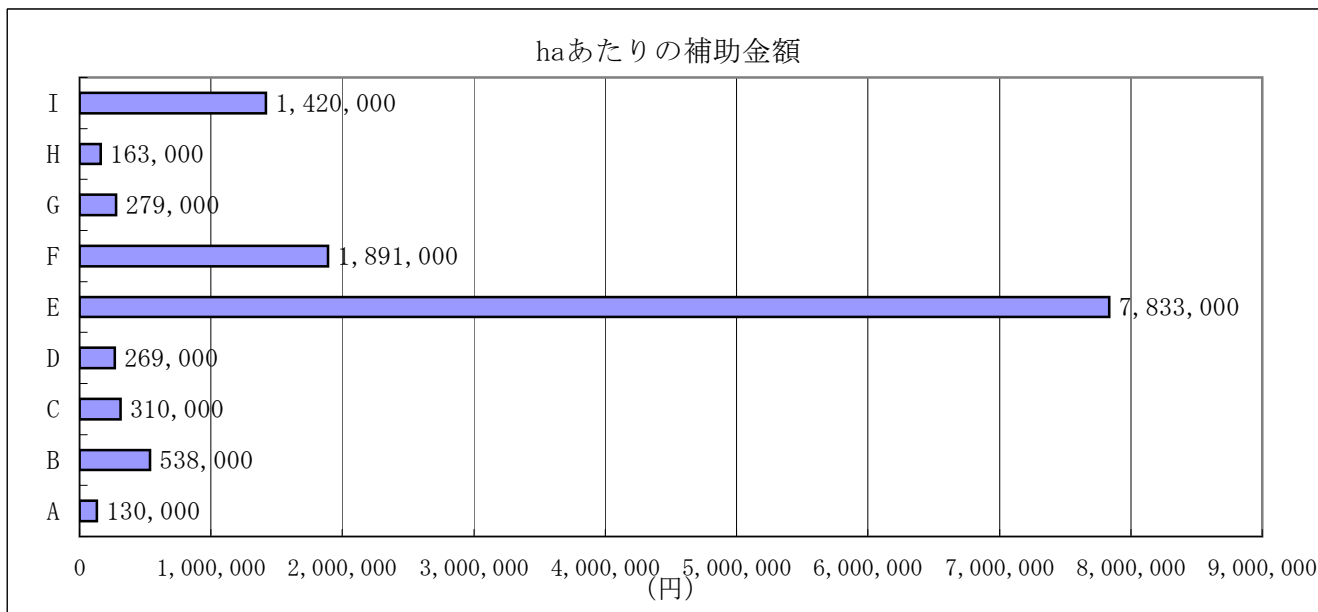
## (2) 各団体別の資金内訳



### <分析概要>

- 各団体における森林の保全・再生活動経費に占める補助金の充当率は、いずれも80%以上と高くなっている。
- 一方、自己負担額は最高で305,832円で10万円以下が5団体となっている。

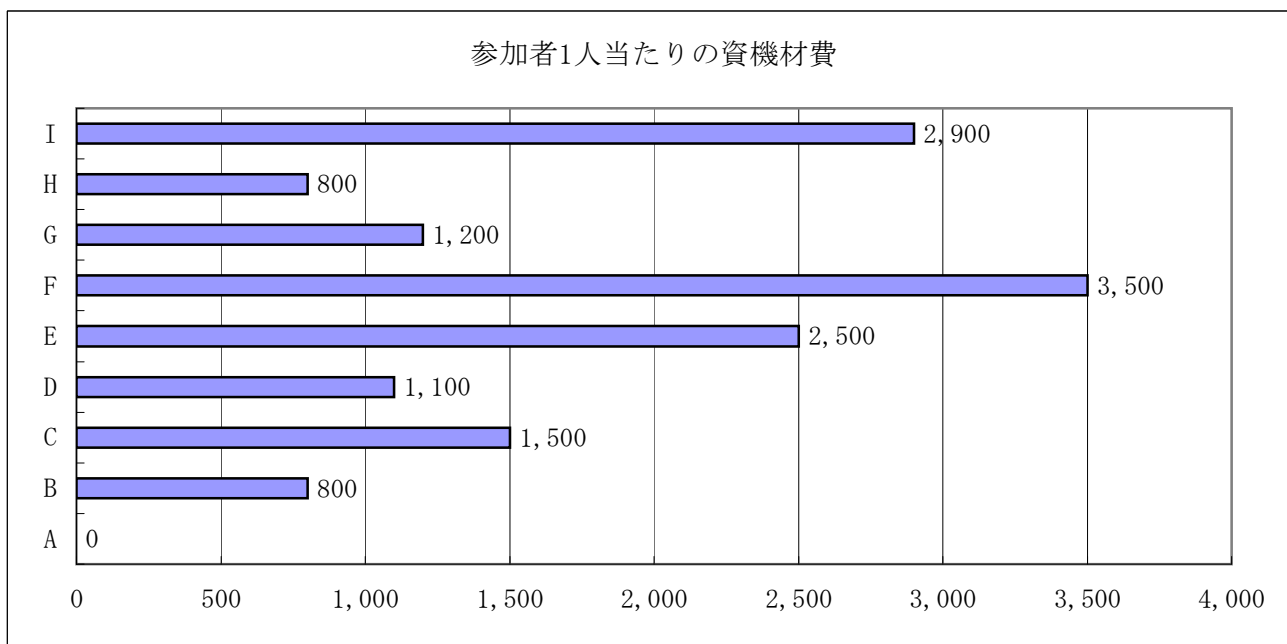
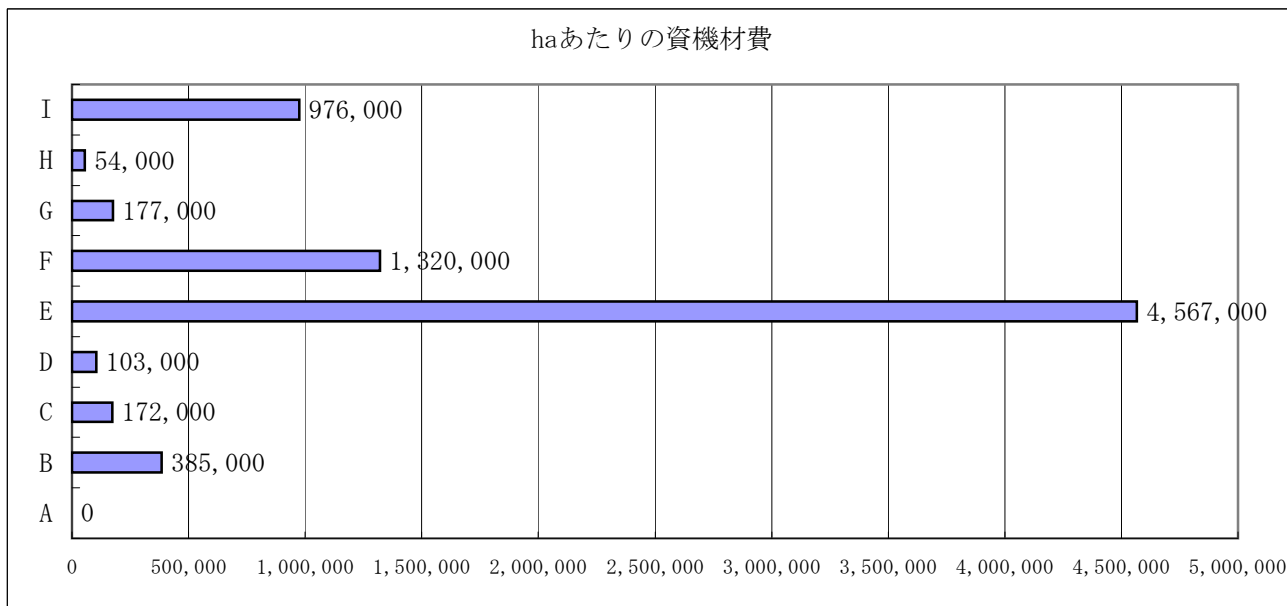
### (3) 各団体別の補助金額の比較(費用対効果)



#### <分析概要>

- 各団体の活動面積(=整備面積)当たりの補助金額を比較したところ、最小単価と最大単価では約60倍の開きがある。なお、通常の事業で行う一般的な森林整備に係る経費は、ha当たり概ね60万円程度である。
- 一方、参加者一人当たりの補助金額で比較した場合には、最小単価と最大単価の開きは5倍程度で、最大でも5,000円となっている。

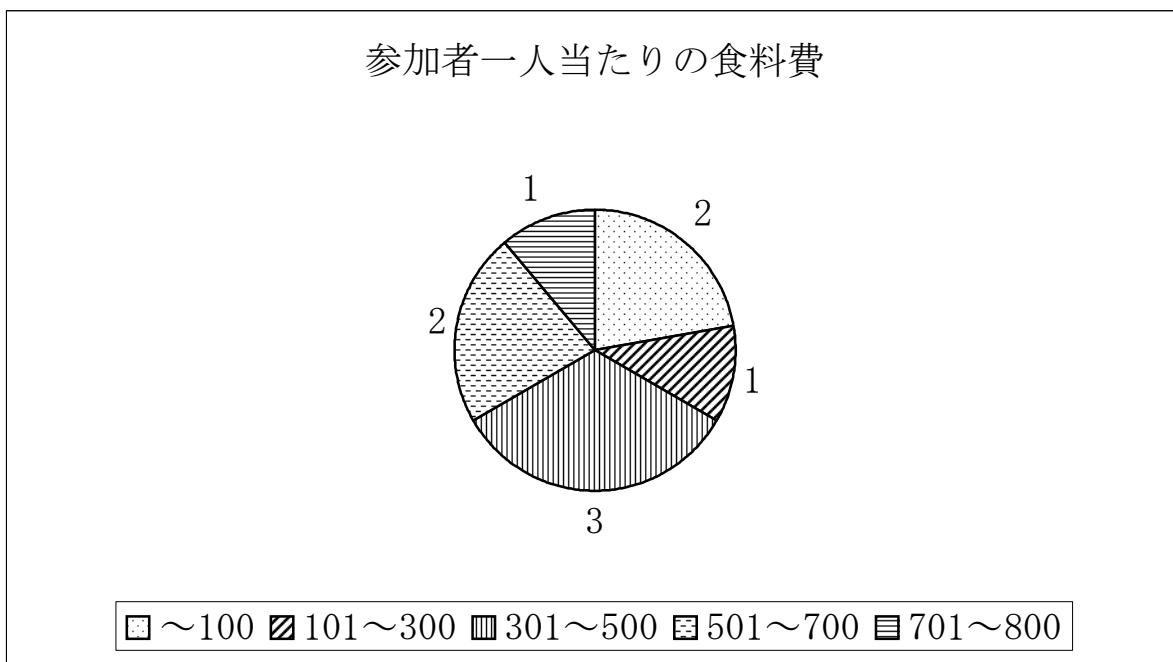
#### (4) 各団体別の資機材費の比較（費用対効果）



#### <分析概要>

- 各団体の活動面積（＝整備面積）当たりの資機材購入費を比較したところ、最小単価と最大単価では約85倍の開きがある。
- 一方、参加者一人当たりの補助金額で比較した場合には、最小単価と最大単価の開きは4倍程度で、最大でも3,500円となっている。

(5) 各団体別の食料費の比較



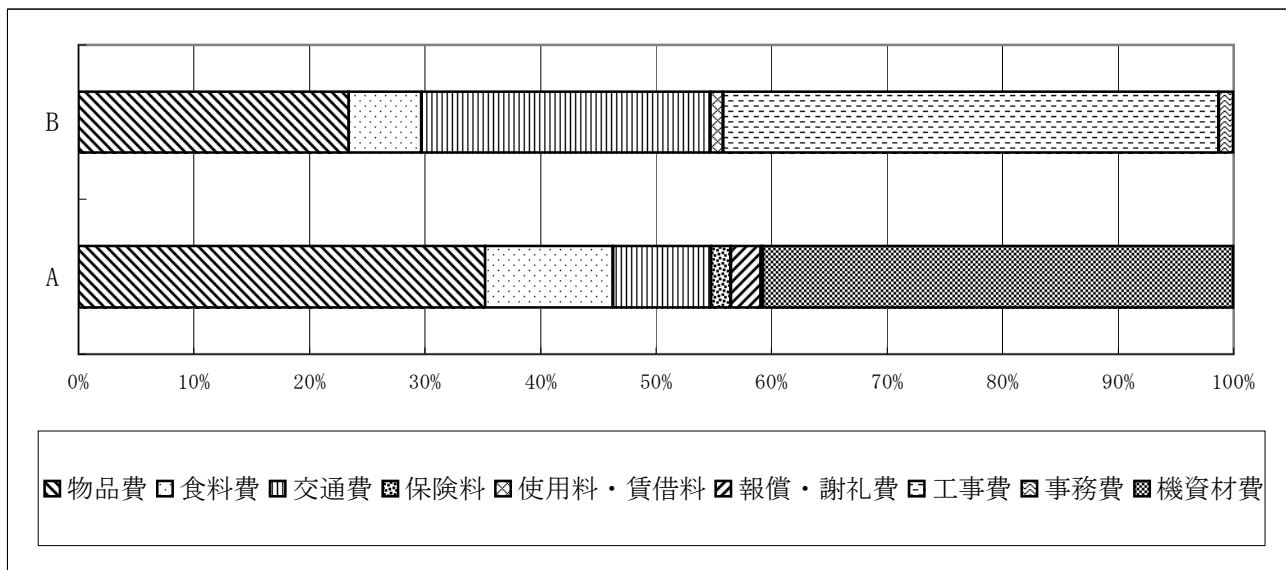
<分析概要>

- 各団体別の参加者一人当たりの食料費は、100円以下が2団体、最大でも800円となっている。

## II 森林の保全・再生以外の事業、資機材の購入事業に基づく分析

### 1 補助実績

#### (1) 各団体別の経費内訳

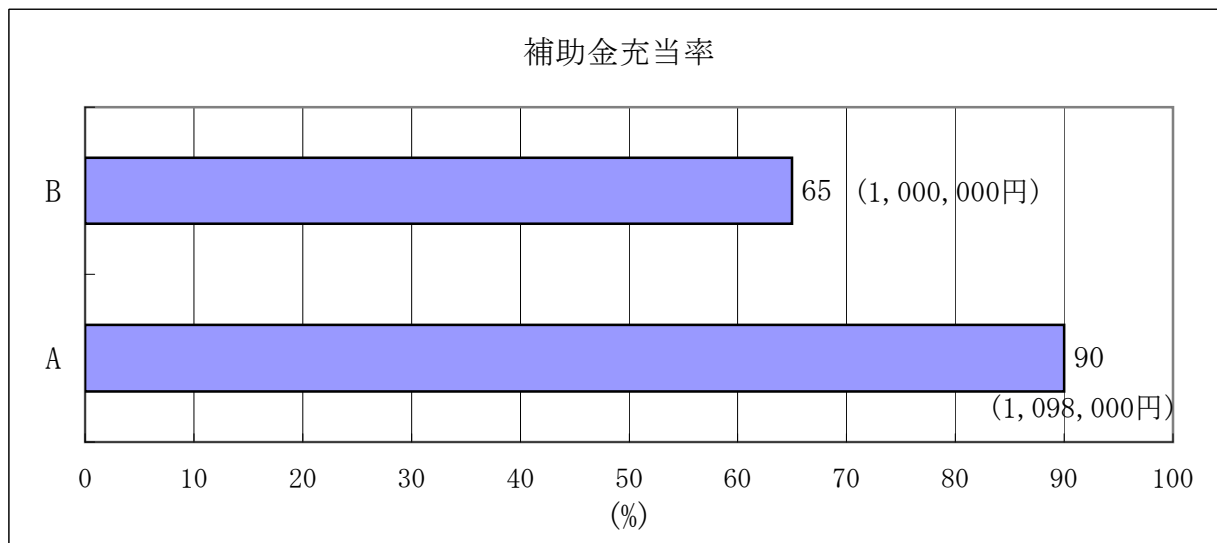


費目	内訳
物品費	・鹿柵材料一式 ・草刈鎌 ・ワイヤーロープ ・木工サンダー
食料費	・ボランティア等参加者昼食代
交通費	・ボランティア等参加者交通費
保険料	・ボランティア保険
使用料・賃借料	・ダンプリース料
報償・謝礼費	・集材指導
工事費	・鹿柵設置委託（業者施工） ・植林委託（業者委託）
事務費	・葉書き代 ・書類作成、印刷代
機資材費	・集材費（ひっぱりだこ）

#### <分析概要>

- 補助金を工事費に充当したのは、全ての事業、団体（17団体）の中で、森林の保全・再生以外の事業における団体Bのみで、その内容は、プロの業者への整備の委託である。
- 団体Bにおいては、交通費が実費ではなく定額（1,000円、1,300円）で支払われている。

(2) 各団体別の資金内訳



<自己資金額及び収入内訳>

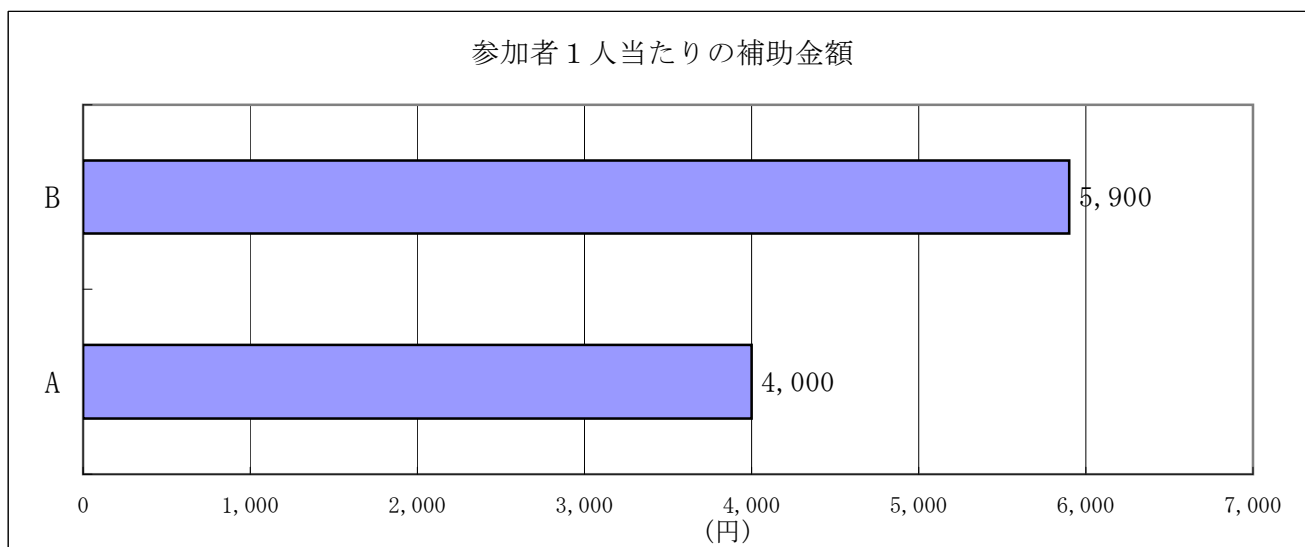
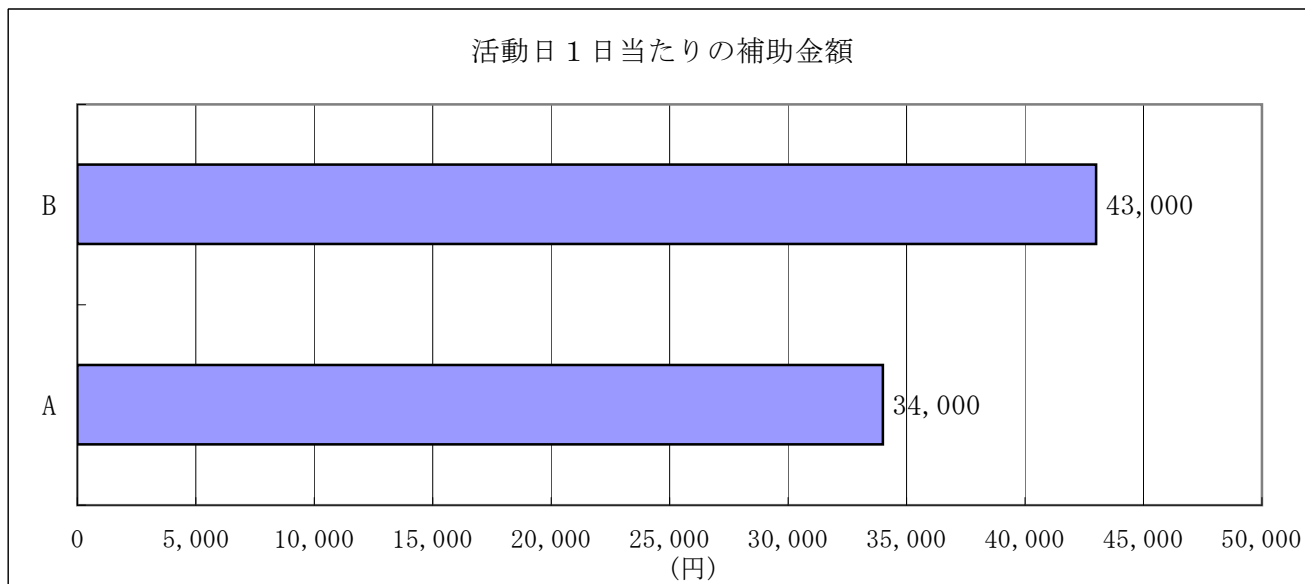
A	126,094円	◇ 会費収入
B	540,494円	◇ 会費収入 ◇ 他事業補助金

<分析概要>

- 補助金の充当率は、団体によりまちまちであった。
- 自己資金額も団体により開きがあるが、団体Bは会費収入以外に他の補助金を充当している。



### (3) 各団体別の補助金額の比較（費用対効果）



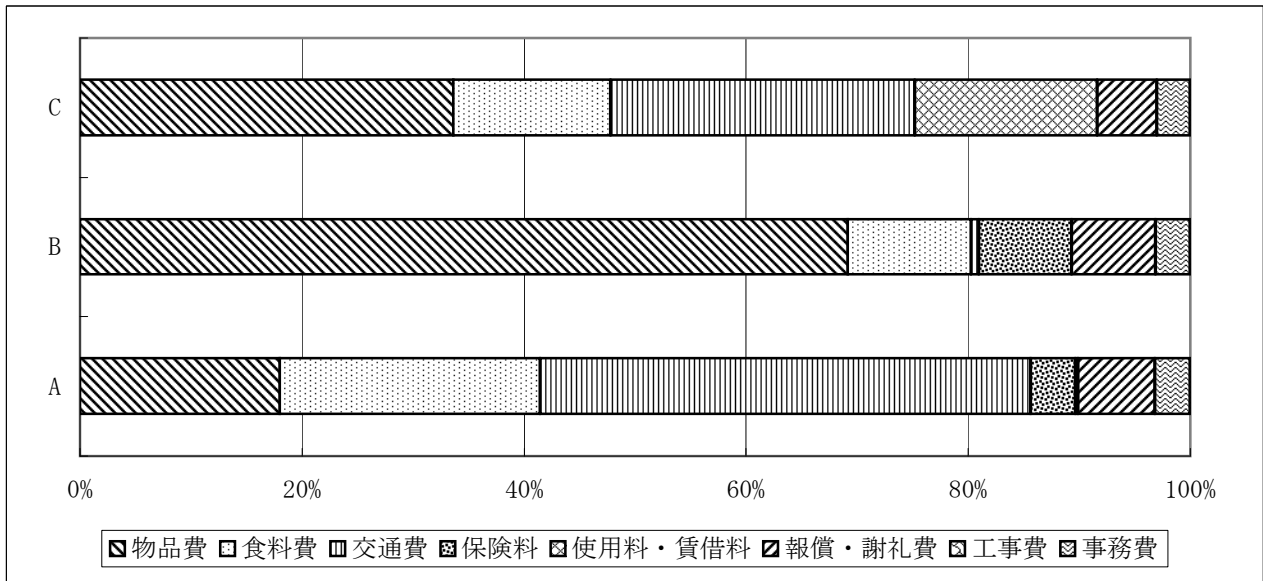
#### <分析概要>

- 活動費 1 日当たりの補助金額は、それぞれ43,000円、34,000円で、参加者一人あたりではそれぞれ、5,900円、4,000円と大きな開きは無かった。

### Ⅲ 普及啓発・教育事業実績に基づく分析

#### 1 補助実績

##### (1) 各団体別の経費内訳

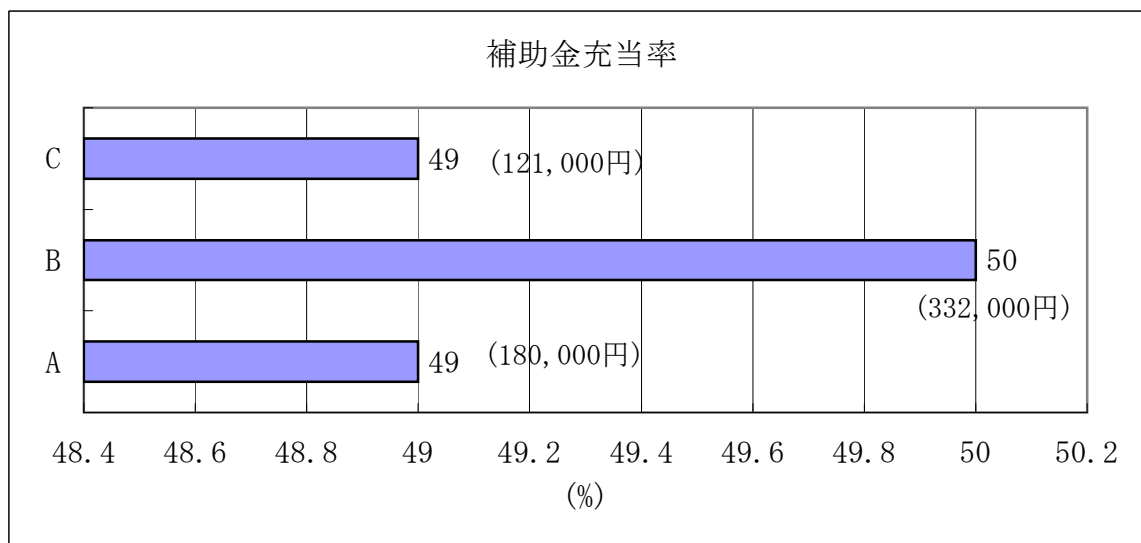


費目	内訳
物品費	・胴長 ・学習用教材資材（綱、バケツ、フルイ等） ・パネル代 ・きのこ種駒 ・ピザ、バームクーヘン材料費
食料費	・講師（会員）弁当 ・飲み物代
交通費	・電車代
保険料	・ボランティア保険
使用料・賃借料	・車両借り上げ
報償・謝礼費	・観察会等講師謝礼
事務費	・コピー代 ・郵送費 ・事務用品（マジック）

#### <分析概要>

- 経費配分における共通した傾向は見られない。
- 団体Bについては、物品費等活動に必要な経費に要する割合が高いのに対し、他の2団体では、会員の食料費や交通費といった活動内容に直結しない経費の割合が高くなっている。

(2) 各団体別の資金内訳



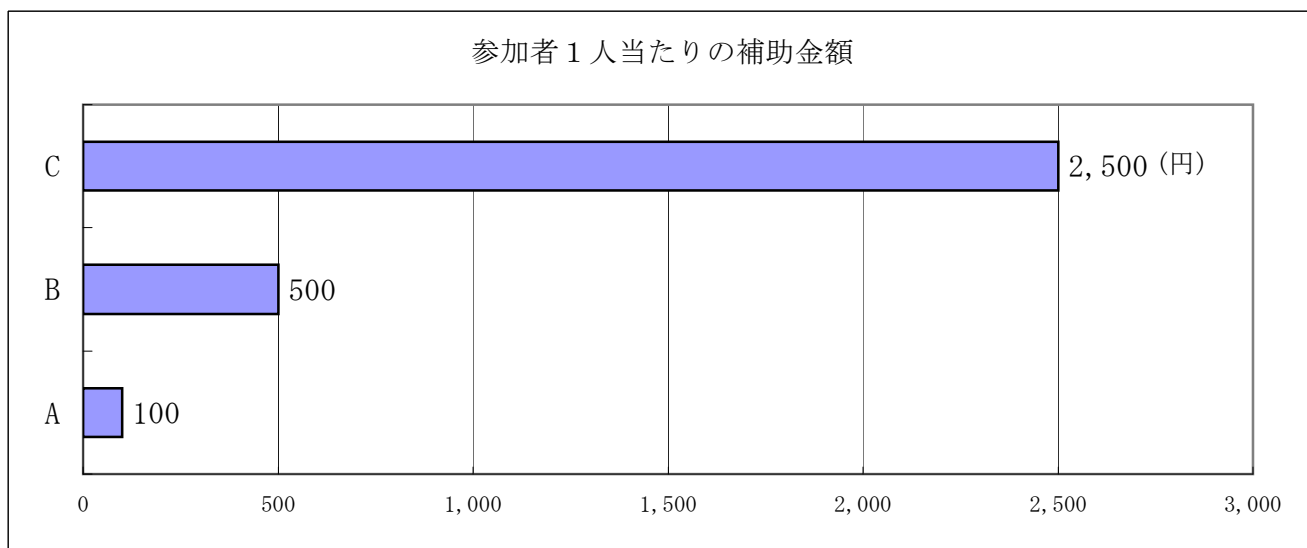
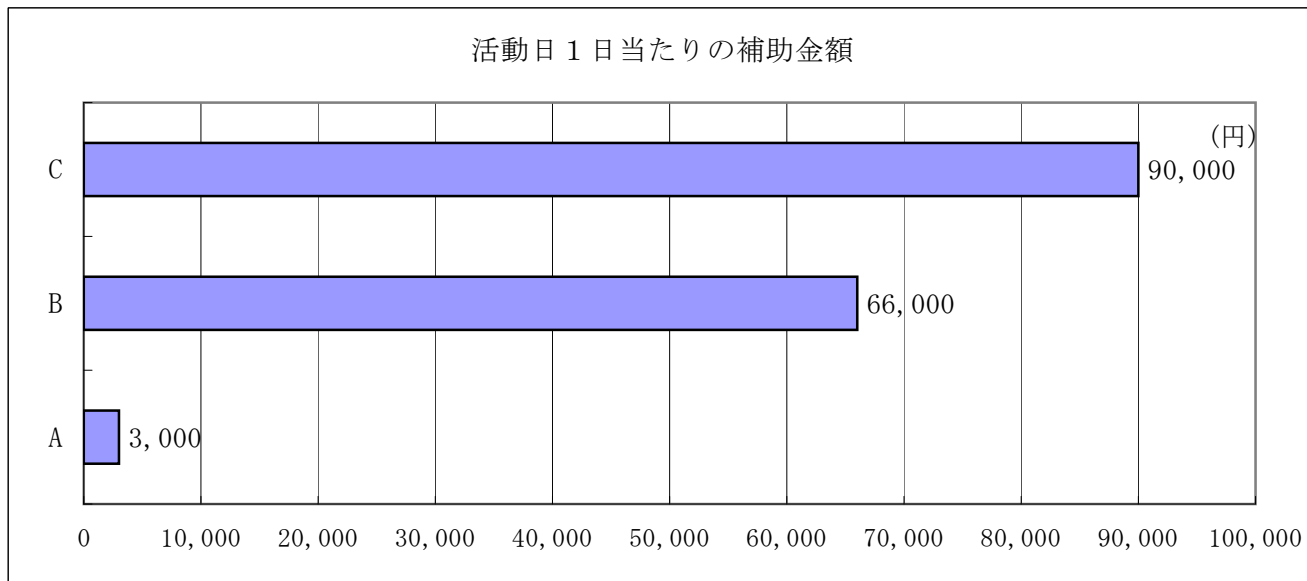
<自己資金額及び収入内訳>

A	123,996円	◇ 会費収入 ◇ 講師派遣による謝礼収入
B	332,560円	◇ 会費収入 ◇ 団体主催の体験講習の参加費収入
C	184,553円	◇ 会費収入 ◇ 寄付金

<分析概要>

- 各団体における活動経費に占める補助金の充当率は、いずれも50%程度となっている。
- 一方、自己負担額は、会費収入及び活動収入（謝礼、参加費）で賄っているほか、寄付金を募っている団体もあった。
- 参考として、謝礼は約1,500円/人。体験講習参加費は、2,000円/人。

### (3) 各団体別の補助金額の比較（費用対効果）



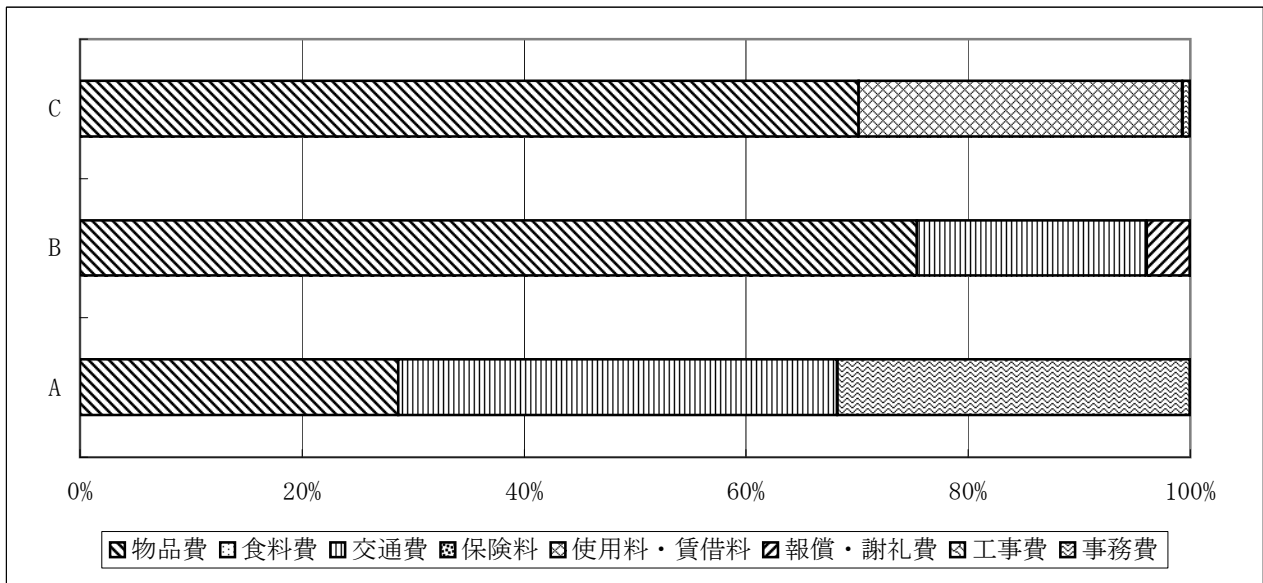
#### <分析概要>

- 各団体の活動日数当たりの補助金額を比較したところ、最小単価と最大単価では30倍の開きがある。
- 一方、参加者一人当たりの補助金額で比較した場合においても、最小単価と最大単価の開きは25倍程度で、最大で2,500円となっている。

## IV 調査研究事業実績に基づく分析

### 1 補助実績

#### (1) 各団体別の経費内訳

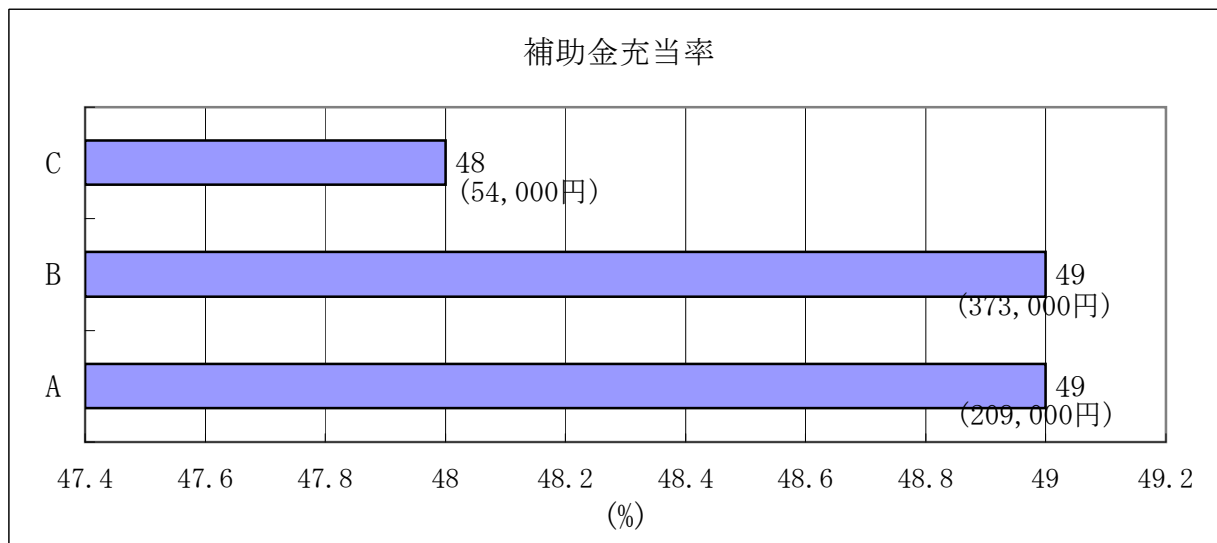


費目	内訳
物品費	・調査試験資材（パックテスト、大腸菌検出紙等） ・調査用容器等作成資材 ・顕微鏡 ・流速計 ・水槽
食料費	—————
交通費	・高速料金 ・電車代等
保険料	—————
使用料・賃借料	・車借上げ
報償・謝礼費	・地元協力者への謝礼（実績で確認できず）
事務費	・クリアファイル等消耗品

#### <分析概要>

- 経費配分における共通した傾向は見られないが、全ての団体で使用していた経費は物品費で、そのうち2団体において物品費の割合が一番高かった。
- 団体Bの交通費は、実費ではなく一律一人2,000円であった。また、団体Bの報償費については、実績が不明。
- 団体Cの車両借上げについては、会員の車両の借上げで、一律6,000円/回であった。また、車両の借上げ代金は、そのまま会員から寄付を受けている。

(2) 各団体別の資金内訳



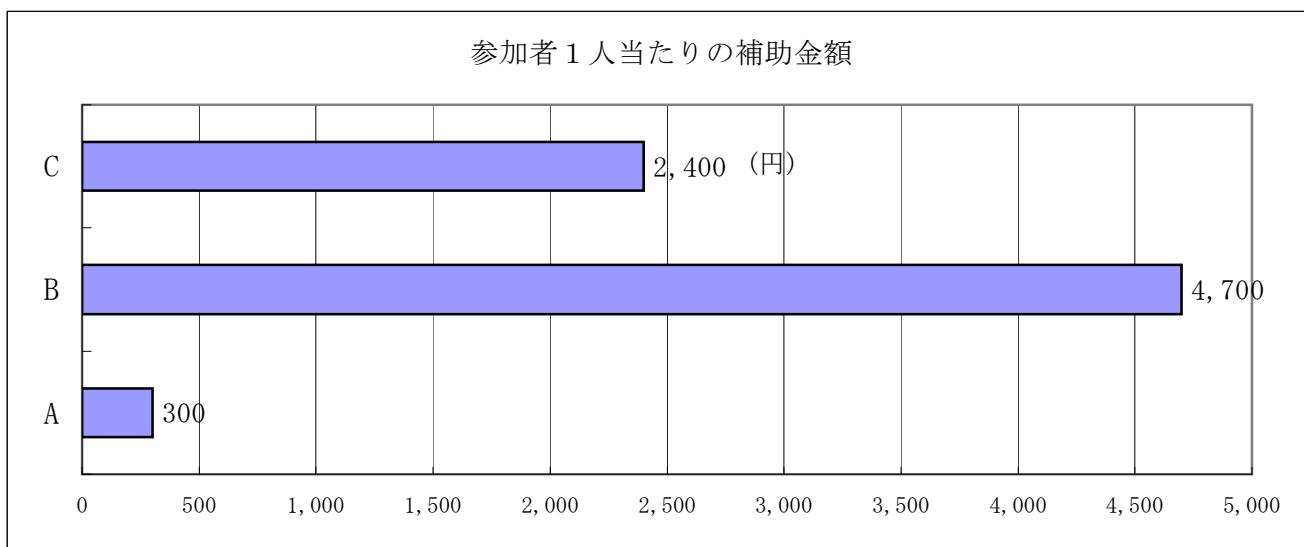
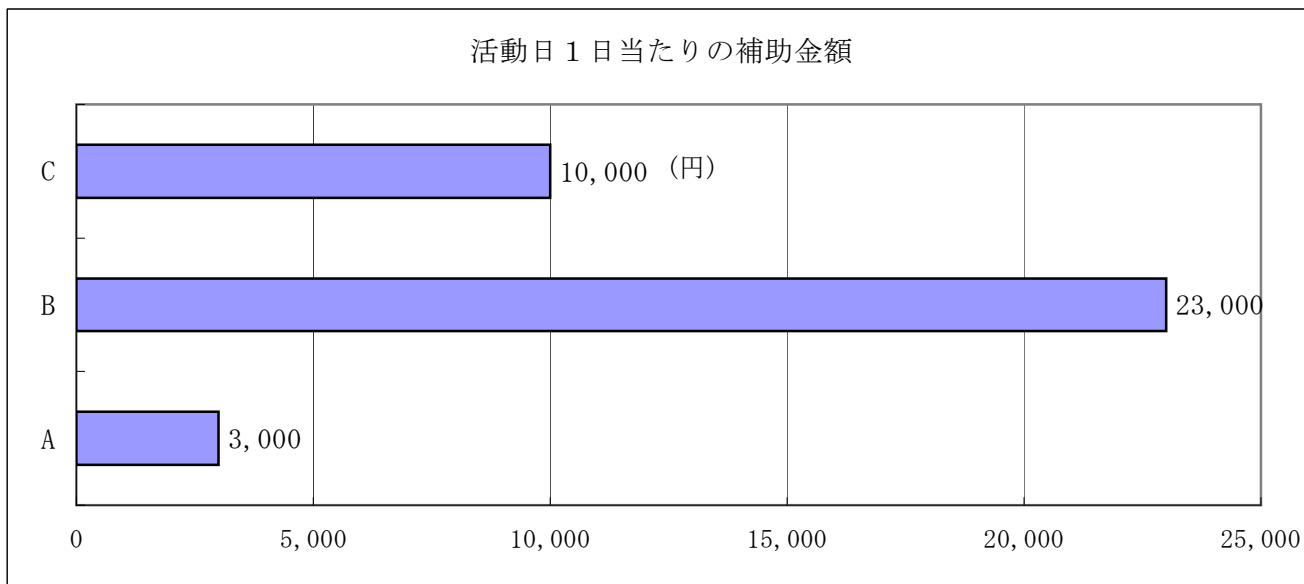
<自己資金額及び収入内訳>

A	56,374円	◇ 会費収入
B	389,690円	◇ 会費収入
C	223,180円	◇ 会費収入 ◇ 寄付金

<分析概要>

- 各団体における活動経費に占める補助金の充当率は、いずれも50%程度となっている。
- 団体Cの寄付金の一部は、車両借上げ費をそのまま寄付としたもの。

### (3) 各団体別の補助金額の比較（費用対効果）

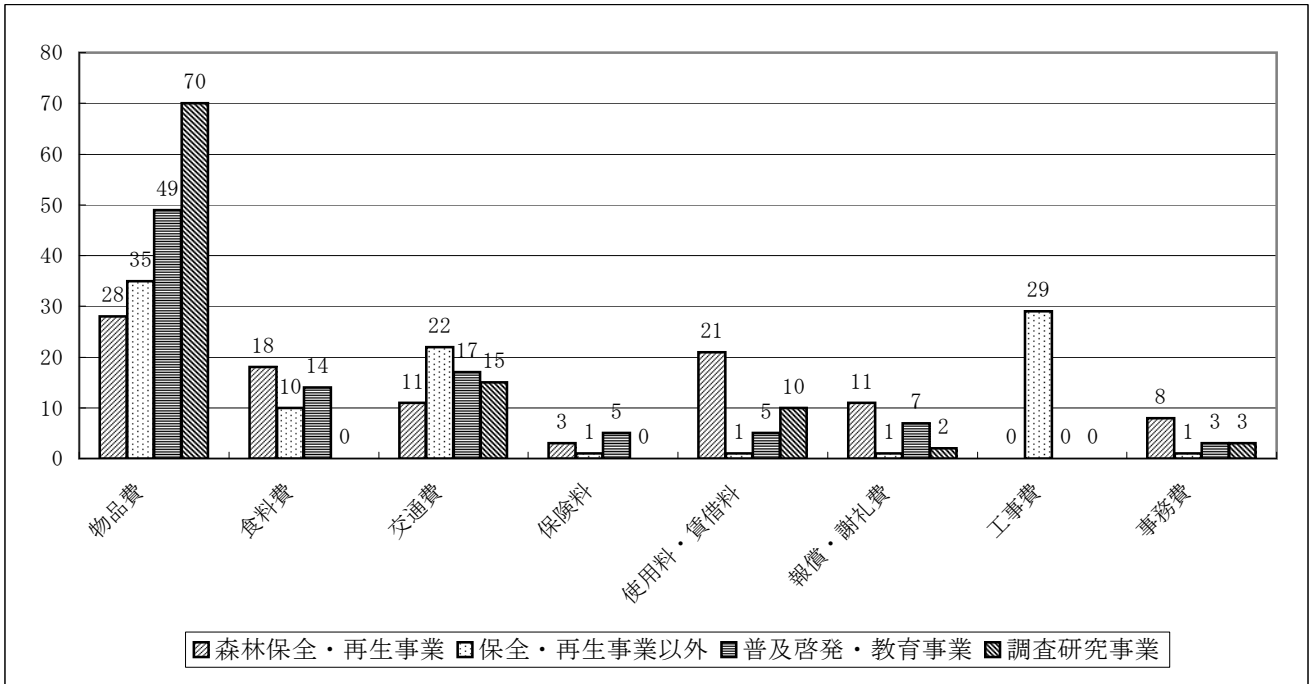


#### <分析概要>

- 各団体の活動日数当たりの補助金額を比較したところ、最小単価と最大単価では約 8 倍の開きがある。
- 一方、参加者一人当たりの補助金額で比較した場合においても、最小単価と最大単価の開きは15倍程度で、最大で4,700円となっている。

## V 補助対象事業別の分析

### 1 各対象事業別の経費内訳（但し、資機材費を除く）

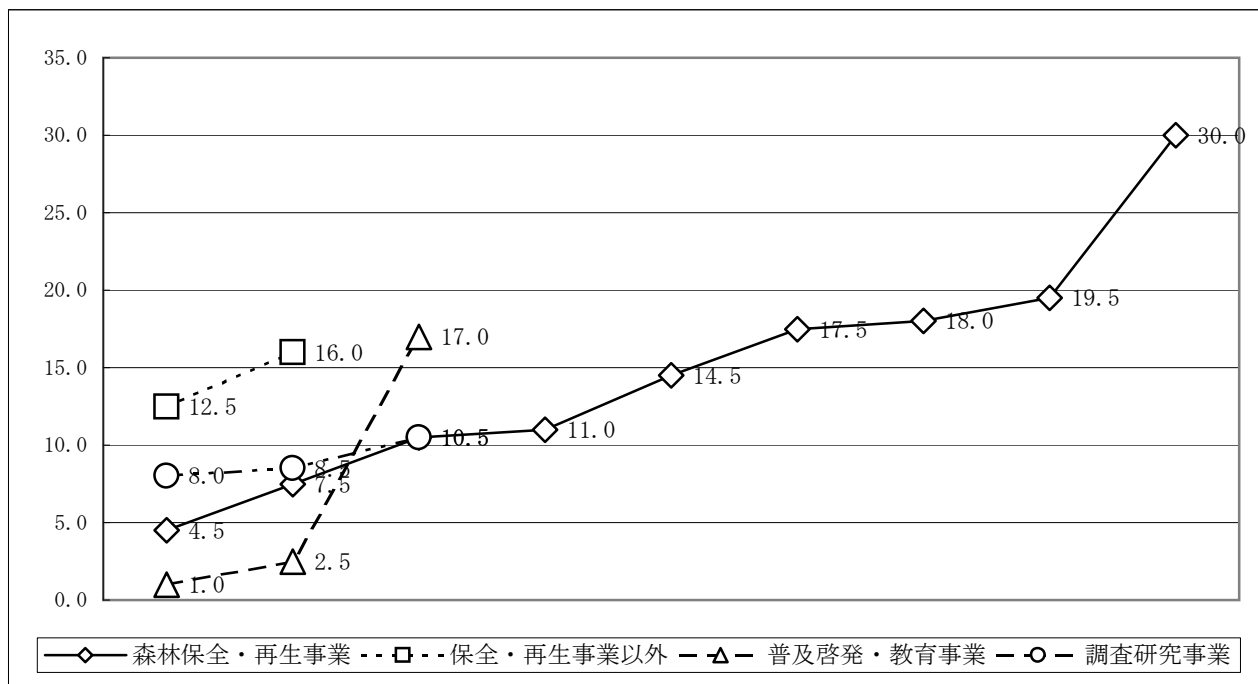


#### <分析概要>

- 各事業において、物品費に占める割合が高くなっている。なお、普及啓発・教育事業および調査研究事業に占める物品費の割合が高いのは、資機材費が対象で無いことによるものと考えられる。
- 参加者の増加に繋がると評価のある食料費について、調査研究事業においては一切使用されていない。



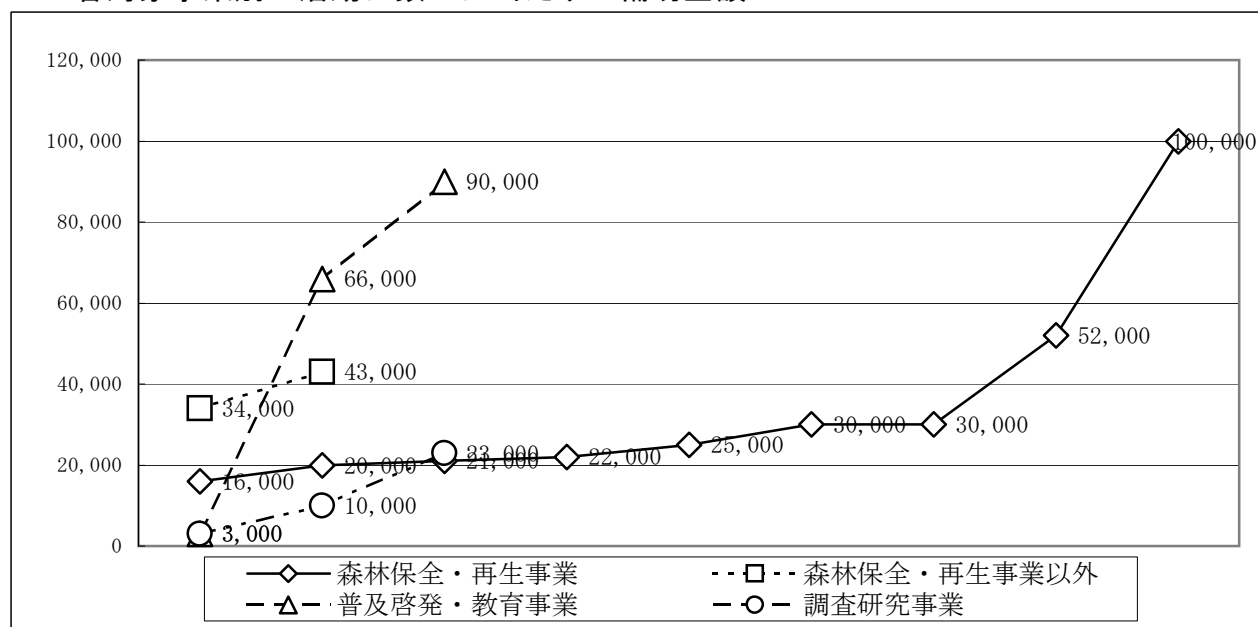
## 2 各対象事業別の年間活動日数



### <分析概要>

- 年間活動日数は、森林保全・再生事業以外の特別対策事業で高く、普及啓発・教育事業において、1団体を除き極めて少ない日数となっている。

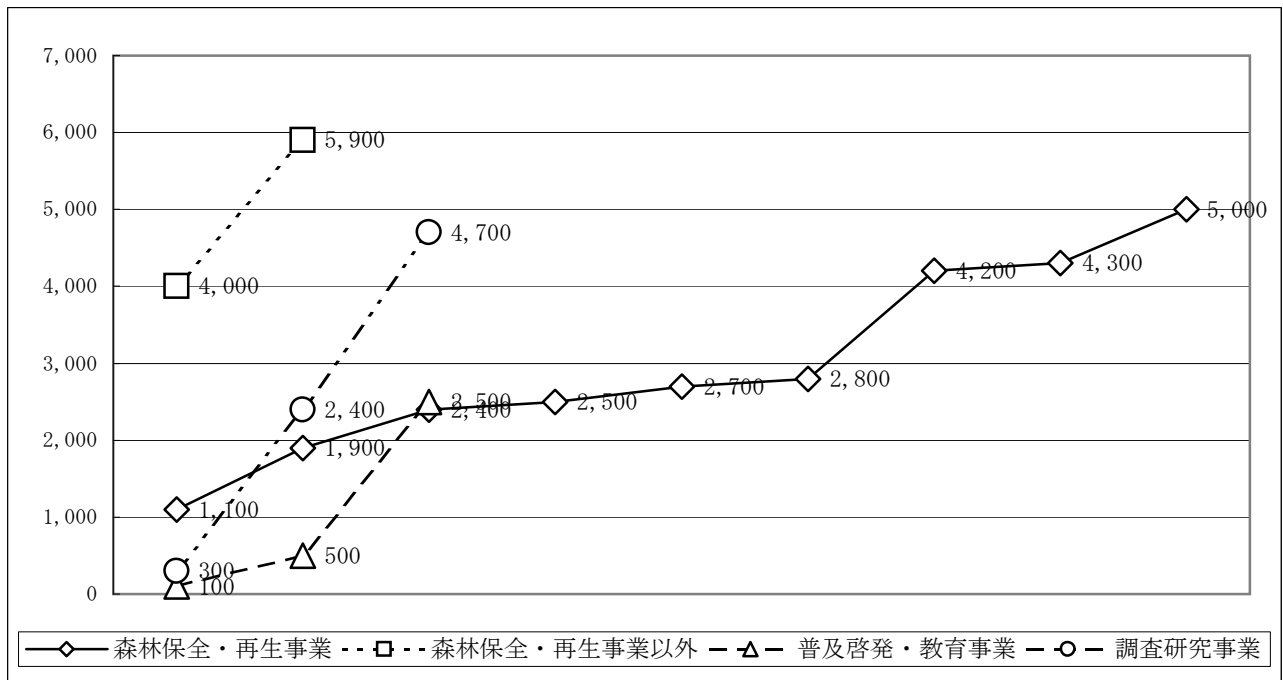
## 3 各対象事業別の活動日数1日当たりの補助金額



### <分析概要>

- 活動日数1日あたりの補助金額は、普及啓発・教育事業で高く、調査研究費が最も低くなっている。
- 金額差は、普及啓発・教育事業及び調査教育事業の3,000円が最も低く、最大は森林保全・再生事業の100,000円で、その差は33倍となっている。また、ほとんどの活動が概ね20,000円程度から40,000円程度となっている。

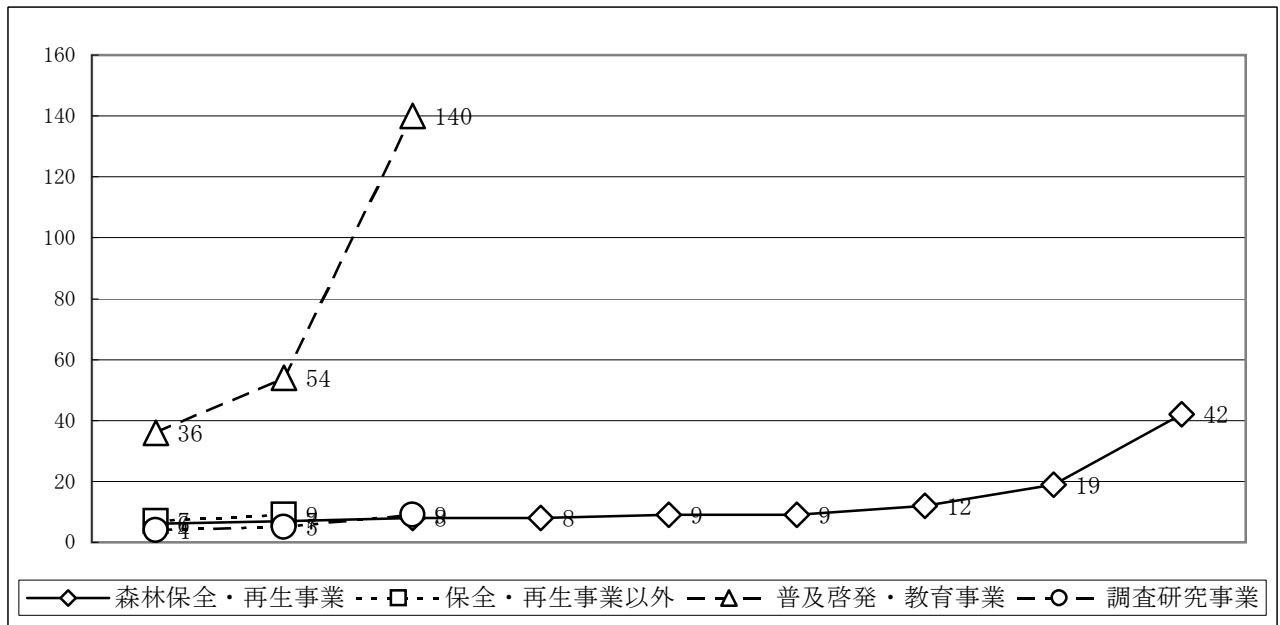
#### 4 各対象事業別の参加者1人当たりの補助金額



#### <分析概要>

- 参加者1人当たりの補助金額は、森林保全・再生事業以外の特別対策事業で最も高く、普及啓発・教育事業がもっとも定額である。

#### 5 各対象事業別の活動日数1日当たりの平均参加者数



#### <分析概要>

- 活動日数1日当たりの参加者数は、普及啓発・教育事業が他の事業を大きく上回っており、その他の事業はほぼ同等レベルで、10名以下のところが多